

ART OF IBARAKI

Ibaraki Ceramic Art Museum



近現代日本陶芸の巨匠たち 茨城県陶芸美術館

表紙では、茨城県陶芸美術館所蔵作品の中から、文化勲章受章者及び重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品を中心に、日本の近現代陶芸を語る上で欠かせない作家たちの作品を紹介します。

八木 一夫 やぎ かずお
大正7年(1918)ー昭和54年(1979)
「理解すること」 りかいすること

昭和52年(1977)
茨城県陶芸美術館蔵
左 h21.9×w20.8cm
右 h23.5×w30.8cm

八木一夫は、1950年代に、「オブジェ」と呼ばれる器の形を離れた陶芸作品を初めて発表した作家です。以降、前衛的な陶芸家集団「走泥社」の中心的メンバーとして活躍しました。1960年代半ばからは、作品のフォルムを追求するため、無機的で焼成による変化の少ない黒陶(松葉などの煤を表面に付着させ、光沢ある黒色を発色させたもの)の作品を中心に制作します。黒陶のシリーズは、本や手、足など具体的なイメージをもつ作風を経て、晩年には、幾何学的なフォルムをもつ、より観念的な作品へと展開していきました。本作もそうした時期の作品で、左右2つの塊の、互いに傾いたり伸びたりした形は、双方歩み寄ろうとする心情をあらわしているかのようです。

主な内容

- ▼ 死亡災害ゼロ推進大会開催
- ▼ 支部対抗ゴルフ大会を開催
- ▼ 経営者研修会を県内5会場で実施

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

安全文化定着し、快適な職場づくり

建設業死亡災害ゼロ推進大会を開催

建設業労働災害防止協会茨城県支部（岡部英男支部長）による平成29年度建設業「死亡災害ゼロ」推進大会が6月16日、水戸市の県建設技術研修センターで開催されました。大会では、労働災害防止対策や安全管理の講話が行われたほか大会決議を採択。約200人の参加者は、安全文化の定着を図り、安全・健康・快適な職場づくりに取り組むことを誓い合いました。



尾曾副支部長

主催者あいさつで尾曾正人副支部長は、全産業の中で建設業の災害発生率が高いことを憂慮しながら「建設業界が今後ともさらに発展していくためには、労働災害を無くし、安心して働ける職場環境づくりが大切。このためには経営者と社員が一丸となって安全最優先の意識を共有し、安全文化をより一層定着させ、災害ゼロに向けて取り組む必要がある。墜落・転落災害、建設機械災害、熱中症などの防止に向けて、万全の安全対策を講じてほしい」と呼び掛けた。



田澤茨城労働局労働基準部長



萩本県監理課副参事

来賓では、茨城労働局の田澤修二労働基準部長が、県内建設業の労働災害状況を述べたほか、県土木部監理課の萩本浩志副参事が、従来にも増して死亡災害ゼロを目指し取り組んでいく方針を述べ、「事故の未然防止には、安全に対する強い自覚と努力の積み重ねが大事」と話した。

続いて、茨城労働局労働基準部健康安全課の深



津直哉産業安全専門官が「労働安全衛生に関する諸対策等」について講話。県内における労働災害の現状や建設業の死亡災害事例を述べた後、三大災害や転倒災害の撲滅に向けた取り組みなどについて解説した。

特別講演では、労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所建設安全研究グループの日野泰道上席研究員が「建設現場における安全対策－墜落災害を中心に－」について説明。作業床の設置や安全帯などを用いた高所からの墜落防止対策について話した。

最後に根本敬久氏（榊根本工務所代表取締役）が大会決議を読み上げ、全員が絶対無事故を再確認した。

特別講演 建設現場における安全対策 労働安全衛生総合研究所 日野泰道上席研究員



現在、基本的な対策が困難な場所での墜落防止対策が問題となっています。安全帯や保護帽などの個人用保護具を適切に使用していただきたい。

建設業経営者研修会
県監理課と本会共催

各種制度の理解深める

本会は茨城県土木部監理課とともに、平成29年度建設業経営者研修会を6月9日から21日にわたり開催し、県内5会場で計2527人が参加した。

研修会では、県監理課が県内建設業者の現況や



入札契約制度の改善状況、適正な下請け契約の締結、施工体制の確保などについて説明。平成29・30年度の入札参加資格について、適用期間を平成31年3月31日までとしたことに伴い、次回(平成31・32年度)の入札参加資格受付期間が従来より2カ月程度早まることから、計画的な経営事項審査受審をするよう注意を促しました。

県検査指導課は、単品スライド条項や建設リサイクル法、建設副産物の実態調査について解説。建設業振興基金は、公共工事に係る工事請負代金債権の譲渡を活用した融資制度などについて説明し、活用を呼び掛けました。

適正な工期設定を

県建築3課・監理課と
意見交換会を開催



小沼県土木部技監兼建築指導課長



下田担当副会長

本会の建築委員会(小薬拓巳委員長)は6月28日に、県建設センターで県土木部の建築3課(建築指導課、営繕課、住宅課)および監理課と意見交換会を行い、現場における諸問題について、本会からの要望を含め話し合いました。

意見交換のうち「設計段階での計上」では、耐震補強で内部作業の際に備品移動を施工者が行わなければならない事例と、外壁塗装修繕工事で、はね出し足場が設計数量に含まれていなかった事例を紹介。いずれも設計段階での適切な



計上を求めました。

「工期・発注時期の設定」では、年度末近くが工期となる工事で、検査を年度内に行うため、直近の産廃マニフェストが間に合わないことがあり、指摘を受けた事例を紹介。また、これから改修工事の割合が増える状況を予測し、入札前に具体的な現状の建物使用状況を明示して欲しいと要望しました。一般競争入札については、地域要件を絞った方が地域の特性が生かせるとし、県の考え方を質しました。

3000万円以上、地域要件変更可能に

受注機会確保を要望し、県農地局が動く

本会は6月30日に県農林水産部農地局を訪れ、農地局発注の公共工事に係る要望活動を実施。地元業者の受注機会確保に向け、土木部と同様の地域要件設定を求めたほか、総合評価方式による発注件数の増加を要望しました。

要望活動には、松山恒男副会長、柴勝副会長、下田德行副会長、細谷武史副会長、中川原勇常総支部長、高野潔常陸大宮支部長が参加。代表して松山副会長が根本力農地局長に要望書を手渡し、善処を求めました。

根本局長は、地域要件について「土木部を参考にしながら、同じような形でできないか、早急に対応を検討していきたい」と回答。翌7月1日付けで、5つの農林事務所と3つの土地改良事務所



根本農地局長（左から3番目）へ要望書を手渡した

に対し、農林事務所の管轄区域全体が対象となっている予定価格3000万円以上の工事について「地域要件を狭めることができる」旨の文書を通知しました。発注業務を行う各事務所は今後、案件ごとに地域要件を判断します。

橋本まさる氏応援で一丸

推薦団体代表会議

8月27日に投開票が行われる知事選挙に立候補を表明している現職の橋本昌氏の推薦団体代表者会議が6月22日に水戸プラザホテルにて開かれました。会議には県内の各首長をはじめ、約600団体の850人が参加し、選挙対策本部長には豊田稔北茨城市長が選出されました。

会議では、本会の岡部英男会長も後援会最高顧問として登壇し、橋本知事を激励しました。橋本知事は「24年間の総決算と言うか、これまでやってきたことを次にしっかりと引き継ぐためにも今回の選挙には勝たなければならない」などと話



すとともに「茨城を良くするため、みなさんの期待に応えられるように頑張る」と宣言し、参加者らと「ガンバロー三唱」を行いました。

親睦深め腕競う

第3回支部対抗 チャリティーゴルフ大会

第3回支部対抗チャリティーゴルフ大会を6月15日に笠間市のスターツ笠間ゴルフ倶楽部で開催し、各支部の腕自慢33組129人が、新ペリア方式で熱戦を繰り広げました。団体戦では、竜ヶ崎支部が3連覇を達成。個人戦では、筑西支部の新井達夫氏が見事優勝しました。

このゴルフ大会は、チャリティーと会員相互の親睦を目的に岡部会長の発案で開催しているものです。

プレー後の表彰式では、岡部会長が「素晴らしい天気にも恵まれ、素晴らしいゴルフが展開された」とプレーを称えました。3連覇を達成した竜ヶ崎支部の細谷武史支部長は「今回はメンバーも違い不安があったが、なんとか3連覇を達成することができた」と喜びを表現しました。その後、細谷支部長の音頭で乾杯し、交流を深めました。



チャリティーへのご協力ありがとうございました

また当日は、5番ショートホールにチャリティーボックスを設置し、参加者から寄せられた善意14万4000円を日本赤十字社県支部に贈呈しました。



名門スターツ笠間ゴルフ倶楽部で熱戦を展開



竜ヶ崎支部が3連覇を達成した



晴天に恵まれ、随所で
ナイスショットが見られた



競技終了後には親睦を深めた

広報やイメージアップを積極的に

茨城県建設産業団体連合会が総会

県内の建設関連21団体で組織している県建設産業団体連合会（会長＝岡部英男県建設業協会会長）の平成29年度定時総会が6月5日に水戸市内の県建設センターで開催され、29年度の事業計画などが承認されました。本年度は、社会資本整備の計画的な推進に向けた働き掛け、積極的な広報活動やイメージアップ活動などを実施し



ていく方針です。

議事を前に、岡部会長は「地域の安全安心を守るわれわれ地方の業者が安定した経営が図れるよう、公共事業予算の確保や受注機会の確保に向け、関係者に強く働き掛けている。また、人材の確保育成に向けた講習・研修を実施していきたい」とあいさつしました。

議事では、28年度事業報告・決算、29年度事業計画案・予算案を承認。本年度の主な事業計画には①全国建設産業団体連合会への参加②経営者研修会、建設業の適性取引に関する講習会、社内IT化スキル講習会、建設産業担い手育成コンソーシアム事業の活用、ICT関連講習会③建設フェスタへの参加④各種刊行物の配布などが盛り込まれました。

下田德行氏、細谷武史氏、斉藤実氏が受賞

全国中小建設業協会会長表彰

6月9日に都内で開かれた全国中小建設業協会（全中建）の平成29年度定時総会で、本会の下田德行副会長、細谷武史副会長、斉藤実理事の3人が建設業振興功労者として会長表彰を受賞されました。

長年にわたり地域の雇用を守り、地域経済を支えてきた功績が認められたものです。誠におめでとうございます。今後のさらなる活躍を記念いたします。

東京都中央区のコートヤード・マリOTT銀座東武ホテルで開催された総会では、平成29年度事業計画などが承認されました。総会後の理事会では、2期4年にわたり会長を務め



た松井守夫氏に代わり、豊田剛氏（豊田土建株、東京都世田谷区）が新会長に選任されました。

社会人の心構えなど学ぶ

新規入職者 研修を開催

本会は6月2日、本年度の新規入職者研修を県建設技術研修センターで開催し、会員33社から70人、県建設産業団体連合会の会員企業などから16社39人が参加しました。

講師を務めた全国建設産業教育訓練協会の富士教育訓練センター講師である花輪孝樹氏は、冒頭のあいさつで「何年経っても学生気分が抜けなくて困る、という声が聞こえてくる。学生気分が残っていると甘くなり、怪我や大きな事故に結びついてしまう。社会人としての自覚を持って欲しい」と注意を促し「建設業は技術と信用。信用では、あいさつが大きな割合を占める」などと、話しました。

続いて、社会人としての心構えや建設産業の現



状を説明し、あいさつ、マナーの実践、建設マンとしてのあり方について解説。最後に「交流と自己啓発」についてグループ研究を行いました。

なお今回は、昨年度に発足した「県建設産業担い手確保・育成ネットワーク協議会」のつながりを生かし、県建設産業団体連合会の会員企業などからも参加者が集まりました。

13社が個別支援へ 啓発実践推進委員会



本会は6月19日、厚生労働省から受託した「建設業における人材確保のための雇用管理改善促進事業」で、本年度第2回目の啓発実践推進委員会（小林伸行委員長）を開き、個別の相談・支援を行う啓発対象事業所13社と雇用管理アドバイザーを決定しました。本年7月～来年1月にかけて、個別の相談支援を行い、取り組み事例集を作成・配布します。

有給促進の啓発を 茨城労働局が本会へ要望



茨城労働局の松本春美雇用環境・均等室長が6月29日に本会を訪れ、会員企業に対する「働き方改革」や「夏の生活スタイル変革（ゆう活）」、「夏季における年次有給休暇の取得促進」の周知・啓発に対する協力を求めました。本会の田山寛治専務理事は「人材確保には必要な取り組み」と理解を示し、PRに協力する旨を伝えました。

貴重な血液を提供・献血で社会貢献

… 常 総 支 部 …



常総支部（中川原勇支部長）は6月22日、支部会館で献血活動を行い、支部員など104人が参加しました。この活動は、地域貢献活動の一環として例年実施しているもので、今回で14回目となります。

また当日は、目の不自由な人が視力を回復できるよう眼球のあっせんを行う公的機関アイバンクへの登録啓発活動も併せて実施しました。

… 筑 西 支 部 …

筑西支部（柴勝支部長）は6月26日、支部会館の駐車場において献血活動を実施し、主



旨に賛同した支部員など63人が参加。貴重な血液を提供しました。

この活動は、地域への社会貢献の一環として、昨年度から開始したもので、今回が2回目となります。同支部は「輸血用の血液が不足していると聞いている。これからも継続し、活動を定着させたい」方針です。

会員の動向

〈代表者変更〉

- ▽ 水戸支部
昭和建設(株) 平塚 博 → 小松原 仁
- 水戸土建工業(株) 荒川 芳和 → 荒川 繁美
- ▽ 太田支部
(株)後藤工務店 後藤 正一 → 後藤 一憲
- ▽ 鉾田支部
沼田工務店(株) 沼田 孝達 → 沼田 一男
- ▽ 潮来支部
石津産業(株) 石津 喜一 → 石津 稔

ちよつと一言



超大作「鏡獅子」を完成させた芸術家平櫛田中（ひらくし・でんちゅう）の名言、「実践実践また実践。挑戦挑戦また挑戦。修練修練また修練。やってやれないことはない。やらずにできるわけではない。今やらずしていつできる。」田中は天寿を全うするも、自分より先に長女、長男を亡くし、悲しみと貧困のどん底から超大作を完成させた。

こうも言っている。人間考えただけではやったことにならない。努力と実行力そして覚悟が必要だ…。(O)